

## ★ ふるさとの史跡から学ぼう

教材：史跡めぐり

ねらい：生徒と地域の人々、家庭、教師が温かい人間関係を築き、それぞれの願いや自由な発想を生かして、生徒たちに感動的で豊かな体験学習を郷土平生の史跡を活用して展開することにより、郷土愛や豊かな人間性を育む。

〈学習指導要領：各学校で定めた目標による〉

### 教材について

郷土平生町には、縄文中期の岩田遺跡、神花山古墳・白鳥古墳をはじめとする古墳群、江戸時代の治水工事跡、大野毛利家の史跡、水場周辺の旧渡船場跡地、人間魚雷回天の基地跡など、様々な時代の貴重な史跡が点在する。本実践事例では、1年生を対象に、以下の内容を扱った。

- ・ 町内に点在する人間魚雷回天の基地跡
- ・ 地跡や神花山古墳などの古墳群や旧渡船場跡地
- ・ 資料館（阿多田交流館）



### 展開例

#### 学習の流れ

<史跡めぐり>

- ①開講式 講師紹介・挨拶
- ②生徒代表挨拶
- ③講義：旧渡船場跡地の説明  
久保白船の句碑について

<神花山古墳見学>

- ④古墳の説明
- ⑤神花山古墳周辺の回天碑や回天訓練海域についての説明

<阿多田交流館見学>

- ⑥施設見学と説明
- ⑦閉講式 生徒代表挨拶

#### 授業づくりのポイント

◇地域素材を生かし、生徒が自ら課題意識をもち、解決していくことができるように事前学習・事後学習との関連も図り、取り組むようにする。

◇地域の方々から史跡の説明を聞くことによって、自分たちの住んでいる平生町の歴史を理解する。また、史跡めぐりを通して、郷土に対する愛着を深めるとともに、戦争の悲惨さを実感し、平和の大切さや家族との日々の何気ない日常の有り難さを再認識することができるようにする。

### 教材研究



阿多田交流館で神花山古墳などの説明を聞く

○生徒は、それぞれの小学校で、近くの二階川・南蛮樋（平生小学校）や白鳥古墳（佐賀小学校）などの史跡について学習をしている。中学校では、時代的にも異なる明治から昭和にかけての史跡を中心に体験学習を設定した。

○1年生では、社会科で地理的分野と歴史的分野を学習する際に、地域の伝統や歴史にふれ、興味・関心を高めて日本全体の歴史学習に取り組めると考える。また、これらの地域に密着した学習をすることにより、自分が地域の一員であるということを再認識することができるように考える。

## ★ 私たちのふるさと～ふるさとを知る～

ねらい ①地域の人々とのふれあいや体験学習を通して、身近な郷土に関心をもつ。

②自ら課題を見付け、調べ学習や交流・体験学習を通して学んだことをまとめ、分かりやすく表現することができる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

### 教材について

田布施町内には偉人や産業、遺跡などを展示してある郷土館、高齢者の憩いの場である公民館、特別支援学校等があり、郷土の学習や交流学習を進める環境が整っている。

これらの施設等を活用して、調べ学習や交流・体験学習に取り組み、その成果をまとめて発表することで、分かりやすく説明する能力を高めて、他の学習にも役立つ力を付けたいと考えた。



### 展開例

学 習 の 流 れ	授業づくりのポイント
①課題を見付ける。 ②調べ学習をする。 ③交流学習や体験学習の計画を立て、必要な準備をする。 ④交流学習、体験学習を行う。 ⑤レポートにまとめる。 ⑥発表する。	◇学級でテーマを決めるとともに、グループごとにサブテーマを決める。 ◇書籍やネットを利用し調べる。 ◇郷土館（民俗資料館）で調べる。 ◇各学級で計画を立てたり、必要な準備をしたりする。 ◇個人で新聞形式にまとめる。 ◇保護者にも公開し、グループごとに発表する。

### 教材研究

・各クラスのテーマと訪問先について

1組 偉人について 郷土館

岸信介、佐藤栄作の兄弟首相を中心に郷土出身の偉人とその功績について調べる。

2組 産業について 郷土館

地域の産業について理解を深めるため、インタビューをしながら情報を収集する。

3組 生活について 東田布施公民館

公民館でのお年寄りとの交流会に参加して、さまざまな世代の考え方を知り、共に生きていく社会とは何かを考える。

4組 住みよい社会について 県立田布施総合支援学校

総合支援学校での生徒との交流会に参加して、誰もがのびのびと生活できる社会とは何かを考える。

5組 遺跡について 郷土館及びたて穴住居跡

町内の遺跡について調べるとともに、発掘された遺品の保存方法について調べる。

★ 明治維新発祥の戦い～大田・絵堂の戦い～

教材：大田・絵堂の戦い

ねらい：大田・絵堂の戦いについて調べる活動を通して、明治維新に向けた長州藩の動きについて理解することができる。

〈学習指導要領：社会科歴史的分野 内容（5）イ 明治維新に対応〉

教材について

大田・絵堂の戦いは、慶応元年（1865年）、長州藩内で起きた戦いである。長州藩内は、江戸幕府に従おうとする保守派（萩政府軍）と、高杉晋作を中心に幕府を倒そうとする革新派に分かれて対立していた。その両者が、美祢市美東町の大田・絵堂の地で、約10日間戦った。

その結果、革新派が勝利し、長州藩全体の考えが江戸幕府を倒すことでまとまった。大田・絵堂の戦いは、明治維新という新しい世の中を作る発端を学ぶのに適した教材である。



金麗社（革新派の本陣）

展開例

学習の流れ

- ①禁門の変について、調べる。
  - ・長州藩は、朝廷に深くかかわり、都で大きな存在感を示していた。
  - ・長州藩は京都での薩摩藩と会津藩との戦いで敗れた。
- ②禁門の変で破れた後、長州藩はどうなっただろうか。
  - ・幕府は、長州を征伐するために出兵した。
  - ・長州藩では、保守派が実権を握り、戦いを避けるため幕府に謝罪した。
- ③このような状況の中、革新派は、どのようにして長州藩の実権を握ったのか話し合う。
  - ・大田や絵堂において、保守派と革新派が戦った。
  - ・革新派が勝利し、長州藩は倒幕の方針をとった。

授業づくりのポイント

- ◇禁門の変の戦いについて、教科書及び資料集から調べる。
  - ・戦った相手
  - ・戦った場所
  - ・戦った理由
- ◇第一次長州征伐によって、幕府軍に包囲された長州藩がとった方法について、話し合いを行う。
  - ・最後まで戦った方がよいという考え
  - ・話し合いで解決した方がよいという考え
- ◇大田・絵堂の戦いに勝った方が、長州藩の実権を握ることができることを捉える。
- ◇革新派の勝利と明治維新の関連について、自分の意見をまとめる。

教材研究

- 大田・絵堂の戦い
 

1865年1月、美祢市美東町大田・絵堂を中心にして、長州藩の保守派と革新派に分かれた戦いが行われた。革新派の勝利により、長州藩は、倒幕へと動き出した。
- 高杉晋作
 

幕末に長州藩の尊王攘夷の志士として活躍した。奇兵隊など諸隊を創設し、長州藩を倒幕に方向付けた。



## ★ 地域の伝統芸能「歌舞伎」に学ぶ

教材：義太夫 寿式三番叟<sup>さんば そう</sup>

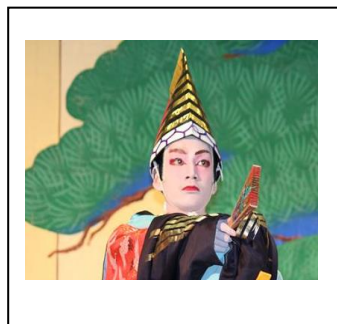
ねらい：地域の伝統文化を学ぶことを通して、ふるさとを愛しふるさとに誇りをもつことができる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

### 教材について

湯治場として歴史をもつ長門市俵山地区では、山口県無形民俗文化財の指定を受けた「俵山女歌舞伎」が伝承されている。10年前から俵山小学校、俵山中学校で、この伝統芸能を「俵山子ども歌舞伎」として受け継ぎ、学習体験している。

地域から講師を招き指導を受け、春と秋の年2回開催される地域の行事「温泉祭り」「文化産業祭」を学習成果発表の場として歌舞伎を上演する。このような地域の人々との出会いやふれあいを通して人から学ぶ、かわりから学ぶという視点を大切に、郷土愛を育てることができる教材である。



### 展開例

#### 学習の流れ

〈本時の活動〉

- ① 3年生の公演を映像で鑑賞する。
- ② 公演の感想や、印象深い所作について述べあう。
- ③ 詞章を読む。詞章の意味を考える。
- ④ 詞章から、春と秋に上演する意義を考え、活動への関心を深める。

#### 授業づくりのポイント

〈本時の活動〉

- ◇ 役者の所作だけでなく、拍子木や、幕引きのタイミング、後見のはたらきにも注意して鑑賞するよう指示する。
- ◇ 力強い足拍子、鈴を振る所作がどんな意味をもっているのか考える。
- ◇ 「鈴の段」に注目し、鈴や扇子で田植えの様子を演じていることを詞章から読み取る。
- ◇ 五穀豊じょうを寿ぐ「寿式三番叟」を継承することに誇りをもつことができるようにす

### 教材研究

○長門市の文化財（発行/長門市教育委員会）

長門市内の文化財が地図とともに紹介されている。地域に伝わる文化財について知ることができる。

○文化デジタルライブラリー（URL <http://www2.ntj.jac.go.jp/dglib/>）

独立行政法人日本芸術文化振興会が運営する伝統芸能を調べる・見る・学ぶためのサイト  
歌舞伎の成り立ちや、演目について詳しく調べることができる。

### 他の取組例

○～ダンス・歌舞伎舞踊を習得しよう～（保健体育）

- ・歌舞伎舞踊の名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方を知る。
- ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わう。
- ・イメージを深めた表現を発表し、踊りを通じた交流ができるようにする。

○～着物を着てみよう～（技術・家庭／家庭分野）

- ・衣装を着ることを通して、着物の基本的な着装を知る。

○～歌舞伎を英語で紹介しよう～（英語）

- ・外国人に歌舞伎を紹介する場面として、修学旅行先や舞台開演前の口上を考える。
- ・グループでアイデアを出し合い、例文や和英辞典を使用して英文を作成し発表する。



## ★ 地域の食文化を知ろう

教材：山口県の郷土料理、昔のおやつ

ねらい：地域の食材を生かした日常食などの調理を通して、地域の食文化に関心を持ち、その意義について理解することができる。

<学習指導要領：日常食の調理と地域の食文化に対応>

### 教材について

- 調理実習の内容は、山口県の郷土料理「けんちん煮」と昔のおやつ「とうふだんご」を取り上げる。
- 下松市内で活動する食生活改善推進員の支援を通して、生徒の実習への興味や意欲を高めるとともに、調理技術の向上を図る。



### 展開例

#### 学習の流れ（2時間）

- ①地域の食材を活用して調理実習をする意義に気付く。
- ②調理実習をする。
- ③会食をし、各班で食生活改善推進員と地域の食について情報交換をする。
- ④各班の生徒代表が、実習後の気付きや感想を発表する。
- ⑤食生活改善推進員から講評を聞く。

#### 授業づくりのポイント

- ◇旬のダイコンや昔から日本人の食生活に欠かせない豆腐など、身近な食材を活用する。
- ◇食生活改善推進員から話を聞くことを通して、「けんちん煮」や「とうふだんご」作りに意欲的に取り組むとともに、郷土料理や地域の食文化に関心をもつようにする。
- ◇実習した料理を、家庭の食事や弁当作りのおかずなど、自分の食生活に結び付ける。

### 教材研究



#### ◆材料(4人分)◆

大根	300g	
にんじん	50g	
木綿豆腐	240g	
油揚げ	1枚	
サラダ油	小さじ2	
a	砂糖	小さじ2
	しょうゆ	大さじ1
	塩	小さじ1/4
	いりこだし	大さじ1弱

#### ◆作り方◆

- ①大根、にんじんは皮をむいて5mm厚さの短冊切りにする。  
油揚げは湯通しして細切りにする。
- ②鍋に油を熱し、にんじん、大根を炒める。大根が透きとおったら油揚げを加えて炒め、調味料aを加え全体にいきわたらせる。
- ③水気を軽くきった豆腐を手でちぎりながら加え、蓋をして中火で煮る。
- ④途中2～3回上下を返して水気がなくなるくらい、焦がさない火加減で煮る。

## ★ 響け！春日鬼太鼓

教材：防府市牟礼地区にある「春日神社」の「春日鬼太鼓」を、長年お世話しておられる荒瀬さんの思いを題材にした自作資料  
ねらい：奉仕の心で伝統芸能の継承に力を尽くす登場人物の思いにふれ、自分も地域や郷土のために何かできる人になりたいと思うようになる。

〈学習指導要領：道徳4（5）勤労・奉仕（8）郷土愛（9）伝統芸能の継承に対応〉

### 教材について

- ・文化祭で、「春日鬼太鼓」を真剣に演奏する生徒の姿に感動し、地域の伝統芸能を継承する真摯さを後世に引き継ぐために、是非、道徳で教材として紹介したいと考えた。
- ・長年続いている地域の伝統芸能を支える人々の存在と、その伝統芸能に自らが関わっているという事実を認識することで、故郷のために何かしたいと思うようになってほしいと願い、教材化した。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ①「春日鬼太鼓」を知っているか挙手する。
- ②本文黙読
- ③荒瀬さんはどんなことで苦勞されたかを考える。
- ④意見発表
- ⑤荒瀬さんが苦勞されながらも、長年お世話を続けた理由を考える。
- ⑥授業の感想を書く。

#### 授業づくりのポイント

- ◇文章が長いので、前後半に分ける。
- ◇たくさんの苦勞を具体的に挙げさせることで、実際に荒瀬さんが取り組んで来られた活動の内容を生徒が理解しやすくする。
- ◇意見をまとめる際に、「伝統」・「奉仕」といった言葉を提示し、「奉仕の心」の源となる思いに迫る。
- ◇「故里への思い」・「誇り」を自分たちがどのように形にできるかを考えさせる。

### 教材研究

- ・春日神社



鬼面館にかけてある鬼面



古い太鼓を運んでもらう

### 他の取組例

- この教材に出てくる高校生にスポットを当て、太鼓演奏を長年続けてきた高校生の思いから、若者の故里や地域の伝統芸能に対する思いを知る。
- 音楽の「邦楽」の授業で、講師としてお呼びし、実際に生徒が「太鼓」をたたく機会をもつ。
- 総合的な学習の時間の「ふるさと学習」として、地域への思いや太鼓の演奏を聞く。



## ★ 郷土の芸能「秋掛太鼓」を学ぶ

教材：日本の郷土芸能

ねらい：美和町秋掛地区「秋掛太鼓」保存会の方々に講師に招き、体験学習をすることによって、和太鼓に親しみ、その特徴を味わうとともに、我が国や郷土の伝統文化の価値を深く理解し、地域への愛情や誇りをもつことができる。

〈学習指導要領：第2学年「A表現」(2)イ・(4)アに対応〉

### 教材について

岩国市美和町秋掛地区には「秋掛太鼓」という伝統芸能があり、地域の保存会の人たちによって传承されている。美和地域の行事をはじめ、様々な場で現在も演奏活動を続けておられるので、実際の演奏にふれた生徒も多いと思われる。

しかし、実際に太鼓をたたいた経験のある生徒はごくわずかであり、和太鼓の体験学習として保存会の方に実際に教えていただくことは大変意義深い。

「秋掛太鼓」の由来、伝統芸能を継承するということ、活動の楽しさや充実感、地域への思い、そして使命感や誇りなど、実際に指導を受けながら、生徒は、地域の方から大変多くのことを吸収し、学び取ることができるだろう。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ①「秋掛太鼓」の歴史や保存会の方々の活動について話を聞く。
- ②保存会の方々による模範演奏を聴き、感想を述べる。
- ③姿勢やばちの使い方、たたき方等と和太鼓演奏の基本について説明を聞く。
- ④曲目「連山」を実際に打ちながら、演奏の仕方について学ぶ。
- ⑤グループごとに成果を発表し、感想を述べ合う。

#### 授業づくりのポイント

- ◇「秋掛太鼓」の歴史を理解することにより、地域の伝統文化に興味・関心をもつことができるようにする。
- ◇実際に保存会の方からたたき方を教えてもらうことにより、和太鼓の基本的な演奏ができるようにする。
- ◇地域の人々に直接教わることにより、地域の伝統文化・芸能への理解と興味・関心を一層深め、地域を愛する心をもつことができるようにする。

### 教材研究

連続した2時間で授業を計画したことと、保存会の方に太鼓やばち等の道具類はすべて持ち込んでもらい、一度に多くの生徒が体験することができたことで、最後は全員が「連山」という曲を動きも合わせて演奏できるようになった。体験を通して演奏の基本を学ぶことによって、

和太鼓演奏のだいご味や爽快感、楽しさを味わい、「地域の一員としてぜひ継承していきたい。」という意志が芽生えてくる生徒も出てくるであろう。昨年の授業実施後、4名の生徒が保存会に加わり活動を始めたことは、喜ばしいことである。



基本的な姿勢と打ち方を習う



グループごとに体験する

## ★ ミカン農業体験に向けた事前学習

教材：上関町の農業とみかんの話

ねらい：①上関町の農業の実態を把握することとミカン栽培の仕方について学ぶ。

②小中一貫教育の柱に小中交流行事があり、その一つであるミカン農業体験の「ねらい」をより深く理解し、活動意欲を高める。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

### 教材について

#### ・上関町の農業の実態とミカンの話

上関町は、主に漁業が産業の中心の町で、農業の実態やミカン栽培については、あまり知らない状況である。

児童生徒が農業体験をする前に、柳井農林事務所の方を講師として招へいし、上関町の農業の実態やミカン栽培について、具体的な話をしてもらった。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ①上関町の農業の実態
- ②ミカンの由来
- ③ミカン栽培に必要な作業
- ④ミカン栽培の問題点

#### 授業づくりのポイント

- ◇上関の農業の実態を理解させる。
- ◇ミカン栽培の年間の作業を理解させる。
- ◇ミカンの摘果の必要性を理解させ、摘果作業への意欲付けをする。

### 教材研究

- ・上関町の農地は、平地が少なく段々畑が多い。
- ・雨が少なく、大きな川がないので、水田が少ない。
- ・就農人口は、平成22年で70人程度。若者が少ない。
- ・上関町で有名な作物には、ビワ、ミカン、サツマイモがある。
- ・ミカン栽培に適した気候である。（最低気温が氷点下にならない）また、周防大島町よりも南に位置する。
- ・ミカン栽培の主な作業は、せん定、摘花、摘果、防除、施肥、収穫などがあり、1年中作業がある。
- ・摘果はきれいな実をたくさん付けるために必要な作業である。
- ・生徒が体験させてもらう農園では、完全摘果し、次の年に実を付けさせる方法をとっている。
- ・収穫の時は、2度切りをし、実を傷めないようにする。
- ・農家の高齢化で作り手がいなくなり、ミカンの生産量が減少している。
- ・ミカンには、実がよくなる年とならない裏年があるので、生産量が安定しない。
- ・ミカン自体の価格が安く、収入が少ない。
- ・上関では、近年イノシシの被害が多く、農作物を荒らし、ミカン農家でも大きな問題となっている。

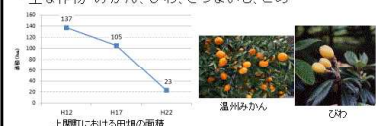


#### ミカンについての問題点

- 作る人が少なくなった
- 生産量の減少
- 成る年、成らない年の差が大
- ミカンの価格が安い
- 害獣（イノシシ）の増加

#### 上関町の農業（のうぎょう）

- ・平地が少なく段々畑が多い。
- ・雨が少なく、大きな川が無いので田が少ない。
- ・若者で農業をする人はほとんどいないので、田畑が少なくなっている。農家の人数？ 70人（H22）
- ・主な作物 みかん、ひわ、さつまいも、こめ



#### 主な作業（さぎょう）



#### 摘果（てきか）

みかんは梅雨明けまでに自分から80～90%の果実を落とす

？生理落果（せいりらつか）

残った10%の果実をそのままおくと……

小さい果実になる、売れない傷のある

果実がのこる

次の年、花が着かず、実がならない

↓  
小さい果実、大きすぎる果実、傷のある果実を人の手で落としてやる



★ *Let's introduce our town to ALT*  
 ~私たちの町をALTに英語で紹介しよう~

教材：山陽小野田市（例）

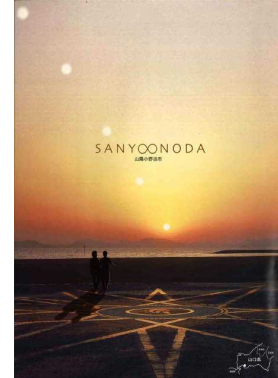
ねらい：新しく来たALTに自分の住んでいる町について英語で紹介する。

〈学習指導要領：2内容（1）言語活動 イ話すこと ウ聞くこと エ書くこと に対応〉

**教材について**

県下には歴史的に広く知られた町ばかりではなく、ふだん何気なく暮らしている町にも、他の人に伝えたい文化や歴史がある。

山陽小野田市にも、「竜神伝説」「三年寝太郎物語」など語り継がれている物語や、「笠井順八」のようにセメント産業の礎を築いた偉人、それにまつわる産業遺産もある。それらを外国人に紹介し、異なる歴史や文化、価値観をもった人々から感想を聞くことによって、改めて郷土を見つめ直し、郷土に対する愛着と誇りを育てることができると思う。



**展開例**

**学習の流れ**

- ①本時のねらいと学習内容を聞く。
- ②配付されたパンフレットを見て、教師の質問に答える。
- ③紹介する内容を決める。
- ④辞書などを使って紹介文を英語に訳す。
- ⑤発表の練習をする。

**授業づくりのポイント**

- ◇山陽小野田市紹介パンフレットを配付する。
- ◇True of False やクリス・クロスなどのゲーム形式で行い、生徒の関心を高めていく。
- ◇4～5人の班を作り、パンフレットの中のどの内容を紹介するか話し合うようにする。
- ◇紹介する時に役立つ表現集を「人」、「物」に分けてワークシートに印刷して配付する。また、机間観察を行い、行き詰っているようなときには支援する。
- ◇対象を意識して話すことや感想を聞く表現を確認する。

**教材研究**

**【訳例】**

Kasai Jumpachi was born in Hagi in 1835. He became an officer in Yamaguchi prefecture. He was worrying about many *samurai* who lost their jobs. He decide to begin the cement industry to help them. He searched a good place to buid the factory. Then he foud it at Kaisaku in Sanyo Onoda. He had worked hard to develop Sanyo Onoda until he died. In 1955 his statue was build at Sumiyoshi Shrine. He is still watching Sanyo Onoda developing there.

**【資料】**

『SANYOONODA 山陽小野田市』山陽小野田市紹介パンフレット、山陽小野田市ホームページ  
 『夢チャレンジ きらり 山口人物伝』（財）山口県ひとづくり財団

**他の取組例**

- “What is this?” “Who is this?” “It’s ~.” を扱う場面で、市にゆかりのある旧跡や歴史的な人物を扱う。また、関係代名詞を導入する段階で、写真を見せながら例文を提示する。
- 地域に貢献した人物について道徳の時間に取り上げる。（主として集団や社会のかかわりに関すること(8)）。

## ★ 長溝を辿って一句 ～岩政次郎右衛門の業績～

教材：長溝用水

ねらい：長溝を辿り、先人の思いや願いにふれ、地域に対する愛情を育む。  
長溝について、考えたことを吟行により表現することができる。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

### 教材について

現在、柳井市の新庄・余田地区で使用されている、全長約7kmに及び農業用の用水路を長溝と呼ぶ。この用水路を中心となってつくったのが岩政次郎右衛門である。昔から、新庄・余田地区は水の乏しいところであり、日照りが続くと、村人の生活は厳しさを増していた。そんな村人の生活のために、地形を調査し、山肌を削り、一身を捧げて長溝をつくった岩政次郎右衛門の業績を学ぶことは、先人の思いや願いにふれ、ふるさとへの愛着を高めることになるであろう。

実際の授業では、地域の方から長溝の歴史を聞いた後、全長約7kmの長溝を地域の方と一緒に歩く。その途中での何気ない話の中から、地域の方々の思いや願いを感じ取ることも期待できる。

さらに、吟行を取り入れることで、感じ取ったことを素直に表現することもできるであろう。



### 展開例

学習の流れ(単元)	授業づくりのポイント
<p>①長溝の歴史を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方の紙芝居の上演</li> <li>・自主研究（書籍、見学、聞き取り等）</li> </ul> <p>②長溝探究ふれあい遠足</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の方々とのふれあい</li> <li>・実態調査</li> <li>・吟行の実施</li> </ul> <p>③長溝について学んだことをまとめ、自分たちができることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内での掲示</li> <li>・参観日等を活用しての発表</li> <li>・一年生に向けた発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇事前に長溝についての紙芝居を見たり、自分なりに書籍やWeb資料で調べたりしておくことで、遠足の際に着目したいことが見付けられるようにする。</li> <li>◇地域の方との学習を多く設け、岩政次郎右衛門への思いだけでなく、地域の方々の思いや願いにもふれることができるようにする。</li> <li>◇長溝について学んだことを、発信する場を設けることで、地域への愛着や、今後の自分の在り方についても考えられるようにする。</li> <li>◇吟行で、5、7、5のたった17文字の中に、自分の思いを込める活動を行うことで、国語科と関連させた学習を行う。</li> </ul>

### 教材研究

○参考図書例 『ふるさと柳井』 編集 柳井市小学校社会科副読本編集委員会

○【岩政次郎右衛門について】（1656年～1736年）

3年の年月をかけて取水源を求め、地に伏せ、谷を渡り、夜はローソクを灯して地形調査や計量などを行い、一人で用水路を設計した。その後、岩国藩の吉川公の許可をもらい、1686年に着工、1689年に完成した。

### 他の取組例

○水に苦勞する村人のために、潮音洞をつくった岩崎想左衛門と業績等で重なる部分が多いので、関連させた学習ができる。

○毎年8月に行われる「長溝祭」において、生徒が長溝の学びを表現する場（劇、俳句等で）を設けると、さらに、地域とのつながりが意識できる。

## ★ 地域の食文化を学ぼう

教材：地域素材を使った調理実習

ねらい：地域の方と一緒に、地域の食材を使った調理実習を行うことを通して、地元の食材の良さに気付くとともにふるさとへの愛着を育てる。

〈学習指導要領：内容B（3）ウに対応〉

### 教材について

下関市内日地区には農家が多く、四季それぞれの農作物が収穫される。地域の活性化を図ろうと、農作物や地元の食材を加工した弁当・菓子等が販売されている。生産・加工に携わっておられる地域の方をゲストティーチャーとして招き、地域の食材を使った料理を教えてもらいながら作ることを通して、地域の食材の良さ（新鮮、安全、おいしい）を実感させたい。また、地域の方とふれあうことで、ふるさとの温かさを感じ取らせ、ふるさとを思う気持ちを育てたい。



### 展開例

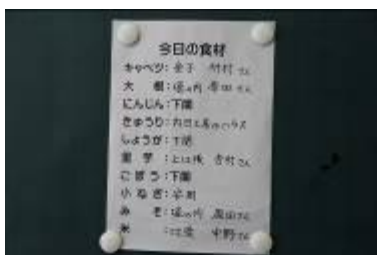
#### 学習の流れ

①食生活を見直そう

②地域の食文化を知ろう

③地域の食材を使った調理の計画を立てよう

④地域の食材を使った調理実習をしよう



#### 授業づくりのポイント

◇資料から、食糧自給率の低下や食生活の変化に気付かせ、どうしたら食糧自給率が向上するかを考える（地産地消等）。

◇地産地消の良さを、生産者・消費者の立場から考える。地域の食材を使った料理（郷土料理・行事食等）について理解する。

◇地域の食材を使った料理の手順を聞き、作業分担を決める。

◇班ごとにゲストティーチャーに入っただき、調理の仕方を習いながら一緒に実習をする。

### コミュニティ・スクールの活用

授業を行うにあたり、コミュニティ・スクールのコーディネーターに授業の目的をしっかりと説明し、学校が必要としている地域の人材を探してもらった。ゲストティーチャーと、献立、授業の流れ、作業手順、費用など、綿密な打ち合わせを行った。ゲストティーチャーを迎えることで、専門的な知識や技能だけでなく、地域の方とも触れ合うことができた。

#### 【授業風景】



（献立） 鶏の唐揚げ 酢の物  
野菜のうま煮 みそ汁  
ごはん 馬関菜漬け

### 他の取組例

- 地域の食材について調べ、それを生かした料理を考え、計画を立てて調理する。
- 食料自給率低下の問題点と改善策について、資料をもとに話し合い活動を行う。
- フードマイレージの比較から、環境に配慮した消費生活について考える。



## ★ 私たちの町ってどんなところ？～大殿ウォッチング～

教材：大殿地区とその周辺地区の建築物や重要文化財等

ねらい：大殿地域の探索や美術館などの施設等で学習することを通して、地元の歴史や文化への関心を高め、郷土愛を深める。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

### 教材について

山口市大殿地区とその周辺地区には、中世～近現代にかけての様々な建築物や重要文化財等が存在している。これらを直接見聞することで、地域の歴史や文化を身近に感じ、故郷を大切にしたい。

#### 【歴史・文化】

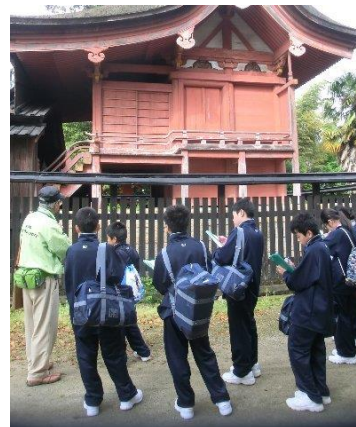
中世…「瑠璃光寺五重塔」「龍福寺」「八坂神社」等

近世…「豊栄神社」「十朋亭」等

近代…「野田神社」「菜香亭」「枕流亭」「山口県政資料館」等

#### 【教育施設】

山口県立美術館…香月泰男展、山口県ゆかりの作家の絵画等



### 展開例

#### 学習の流れ

- ①「私たちの町はどんな歴史や文化があるところか。」という課題について、あらかじめ自分の考えを書く。
- ②観光ボランティアの方々とは大殿ウォッチングに行き、地域の歴史や文化にじかにふれながら、調査活動を行う。
- ③大殿ウォッチングで知り得た情報や感想をまとめ、個人新聞を作成し、発表する。

#### 授業づくりのポイント

- ◇単元構成を説明する。
  - ・全体説明、今後の流れ… 1時間
  - ・事前学習… 1時間
  - ・留意事項確認のための事前指導… 1時間
  - ・大殿ウォッチング… 終日
  - ・振り返り… 1時間
  - ・調査結果の発表… 1時間
- ◇グループ別で、観光ボランティアの方々と一緒に地域を探訪することを伝える。
- ◇どのように発表するのかを考えながら、調査活動を行うよう伝える。

### 教材研究（主なところ）

- 「瑠璃光寺五重塔」…室町時代中期を代表する大内氏による建築物であり、国宝。関ヶ原の戦いの後、毛利輝元が萩入りし、香積寺を萩に引寺。跡地に仁保から瑠璃光寺を移築した。
- 「八坂神社」…大内弘世が応安2年（1369年）に京都から勧請したもの。はじめは豎小路に建立されたが、水の上に社地がかえられた。
- 「十朋亭」…幕末期、長州藩主毛利敬親が、萩から山口へ藩庁を移した際、萬代家が藩の役人たちの宿泊所となった。桂小五郎、高杉晋作、久坂玄瑞、大村益次郎など、維新の志士の名が連なっている。
- 「枕流亭」…薩長連合を推進するため、薩摩藩の小松帯刀、西郷隆盛らが山口にやってきて、当時道場門前にあった枕流亭の2階で会見し、盟約がなつて幕府を倒す連合倒幕軍の結成を誓った。現在は、香山公園内にある。
- 「菜香亭」…明治10年頃、上豎小路に料亭として創業し、井上馨など、山口県出身の政治家や文人らに親しまれた。
- 「山口県政資料館」…大正2年に起工し、大正5年に完成した。大正時代を代表する洋風建築であり、昭和59年、国の重要文化財に指定された。

## ★ 宇部市の発展の基礎を築いた「共存同栄」の巨人「渡辺祐策翁」

教材：渡辺祐策氏の生き方

ねらい：郷土の偉人の功績を学ぶことで自分の住む地域に誇りをもち、目的意識を高める。

〈学習指導要領：中学校学習指導要領解説（道徳編）2章に対応〉

### 教材について

【渡辺祐策氏の生き方を取り上げる理由とその価値】

閑散とした宇部市が工業都市として発展する土台を築いたのが、沖の山炭鉱の初代社長である渡辺氏である。彼は「宇部の神様」と称されているが、地元の子どもたちはその功績をほとんど知らない。沖の山小学校、市立図書館、宇部工業高校、参宮通り、JR宇部線、宇部興産、上下水道施設など、現在の生活に欠かせないものと深くかかわっている。宇部市の「まちづくり」は、渡辺氏の生き方そのものであったといえる。氏の功績を学ぶことは地域に誇りをもち、自分の将来の生き方を考える生徒の育成に欠かせない。そして、キャリア教育の一環にしなければならないと考える。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ①現在のトヨタ自動車の社会貢献を知る。
  - ・社会貢献指数優秀企業の常連である。
  - ・創始者豊田左吉の発明懸賞金と渡辺氏の寄付が同等であった事実を学ぶ。
- ②渡辺氏が行った社会貢献を知る。
  - ・小学校、宇部線、病院、上下水道など主要施設が現在も継承され、将来を見据えた数々の会社を設立したことを知る。
- ③授業の感想を発表し合う。

#### 授業づくりのポイント

- ◇企業の「社会貢献度」は、最近になって使われるようになった言葉であることを知らせる。
- ◇「トヨタ」と同等の社会貢献を約 100 年前に渡辺祐策氏が行っていたことを紹介する（工業都市宇部市のまちづくりや、現在にも関係する施設や会社の写真を見せる。設立までの経緯を伝える。）。
- ◇氏の尊敬する先人が「吉田松陰先生」であり、その考え方に憧れていたことを紹介する。

### 教材研究

#### ・ 沖の山小学校



炭鉱の労働者の子どもたちが通える学校として設立された。

#### ・ 沖の山同仁病院



炭鉱労働者、及びその家族の健康管理の場として建てられた。

#### ・ 宇部新川駅



採掘した石炭の輸送基地として、宇部新川駅が作られた。

長く続く仕事を残すという渡辺氏の「共存同栄」の精神の下、100年後を見通し、明治時代初期から「宇部」が工業のまちとして発展していった。

### 他の取組例

- 職場体験学習の導入（1時間目）で扱う（総合的な学習の時間とのかかわり）。
  - ・体験先を決める前に、地域の産業や「まちづくり」の歴史を知ること、関心や目的意識を高める。
- 社会（歴史：明治維新後の郷土 郷土の産業革命—イギリスとの違い）
  - ・石炭がエネルギーとなっても貧富の差や劣悪な労働環境が生じなかったのは、渡辺氏の社会貢献に対する考えが根底にある。それが、今の宇部市のまちづくりに生かされていることを伝え、それらを継承する姿勢を育てるのに適した教材である。
- 社会（歴史：明治維新後の日本人の気概→受け継がれる吉田松陰の思想）
  - ・吉田松陰亡き後、5年後に生まれた渡辺氏は、「素行渡辺祐策翁」に「無量寿とは吉田先生のごときならん。（中略）その愛国的情熱においてである。」と松陰を尊敬する人物として書き留めている。

## ★ 伊藤博文の生涯を劇にしよう ～志・伊藤博文物語～

教材：伊藤博文（光市）

ねらい：伊藤博文の生涯を調べ、劇として演じることを通して、伊藤博文がもっていた進取の精神と誠実な心を参考にして、自分の生き方を考えることができる。

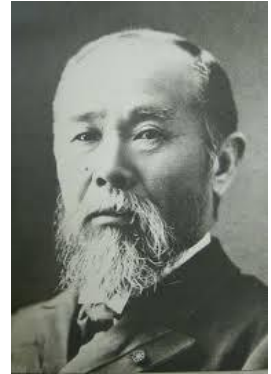
〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

## 教材について

伊藤博文は、現在の光市<sup>つかり</sup>東荷に江戸時代末期に生まれ、幼少期を東荷で過ごした。その後萩に出て、吉田松陰のもと松下村塾で学び、高杉晋作らとともに尊王攘夷運動に参加する。しかし、イギリス密航（いわゆる長州ファイブ）を機に、視野を海外に広げ、日本のこれからの在り方について深く考えるようになった。帰国後、高杉晋作の下関義挙に率先して参加し、倒幕の流れを作った。明治以降は、常に政府の重職を担い、大日本帝国憲法の制定や初代内閣総理大臣就任など、明治末に暗殺されるまで、明治期の日本の中心的役割として活躍した。伊藤博文の生涯は、まさに江戸末期から明治期にかけての日本の歴史そのものである。

しかし、伊藤博文は明治以降の歴史的業績だけにとどまらず、青春期の行動もまた、魅力がある。伊藤博文は松下村塾やイギリスで何を学び、それをその後の人生でどう生かしたのか、生涯の友となる井上馨や尊敬する先輩である高杉晋作、そして師である吉田松陰との出会いの中で自らの生き方を考える青年伊藤博文の姿は、現在の中学生にも通じるものがあるだろう。

本教材は、郷土の偉人である伊藤博文の一生を追体験する中で、人間としての生き方について考えることができ、「総合的な学習の時間」の目標にふさわしい教材であると考えられる。



## 展開例

## 学習の流れ

- ①郷土の出身である伊藤博文について学ぶ。
- ②伊藤博文について調べる。
  - ・伊藤博文の一生について、本やインターネットで調べてみる。
  - ・伊藤博文の生まれた場所を訪ねる。
  - ・伊藤博文について、専門家から話を聞く。
- ③伊藤博文はどんな志をもっていたのかを考える。
- ④伊藤博文の志を地域の人に知ってもらうために、劇にして演じる。

## 授業づくりのポイント

- ・伊藤博文について知っていることを挙げさせ、黒板に項目ごとに整理する。
- ・業績は知っているが、若い時期のことはよく知らないと予想される。
- ・「長州ファイブ」の映画を鑑賞し、伊藤博文の青春期の姿を探す中で、よく知られた後半生の姿との違いに気付くようにする。
- ・図書室にある本や、市立図書館の本を読み、伊藤博文の一生を大観する。
- ・光市東荷にある「伊藤公記念館」を訪れ、生家や資料館を見学する。
- ・歴史家から伊藤博文のエピソードや人柄について学ぶ機会を設定する。
- ・「伊藤博文はイギリスに行って何を学んできたのか。」「伊藤博文は、どんな生き方をしようと思ったのか。」について考える。
- ・明治以降の業績の影に隠れていた、伊藤博文の青春を演じさせることで、自分たちの生き方の参考になることに価値を見出すようにする。



- ・伊藤博文の人生を劇にするなら、どの場面を劇にしたらよいか話し合う。

- ・それぞれの場面の脚本を作り、配役を決め、劇を演じる。

⑤伊藤博文の生涯から学べることを振り返る。

- ・伊藤博文の人生のターニングポイントはその時点かを考え、劇となり得るドラマ性のある場面をいくつか選択する。
- ・幼少期、松下村塾での学び、イギリスへの渡航、下関での挙兵、ハルビン駅での暗殺の場面について脚本を作成する。
- ・脚本を作成する際には、場面の状況や登場人物に応じたセリフになっているかどうかについて検討する。

- ・場面ごとにグループ分けをし、配役を決め、演出や大道具の作成などを行う。
- ・文化祭や公民館行事等で劇を発表する。

- ・伊藤博文の劇を制作することを通して学んだことを意見交換する。
- ・伊藤博文の一生から「進取」と「誠実」を学んだ生徒や、劇の上演を通して、郷土に対する親しみを深めるとともに、自分を表現することの手法を学び、その楽しさを見出す生徒もいると思われる。

## 教材研究

- ・伊藤公記念公園（伊藤博文生家・旧伊藤博文邸・伊藤公資料館） 光市東荷 2250 番地
- ・三隅塾跡（伊藤博文が幼少期に通った寺子屋の跡地） 光市立東荷小学校横
- ・松下村塾 萩市椿東
- ・伊藤博文旧宅・別邸（旧宅：伊藤博文が住んでいた場所 別邸：明治以降東京で住んでいた屋敷を移築したもの） 萩市椿東
- ・功山寺（高杉晋作が倒幕のための藩論統一のために挙兵し、伊藤博文が力士隊を率いて参加した場所） 下関市長府
- ・映画「長州ファイブ」（2006年）映画「長州ファイブ」製作委員会
- ・「やまぐち歴史文化おでかけ講座」 担当：山口県総合企画部スポーツ・文化局文化振興課



## 他の取組例

- 英語科における取組  
伊藤博文を英語で紹介する文を作る。
- 小学校4年生社会科の取組  
地域の発展に尽くした先人の事例として取り上げる。
- 中学校2年生社会科の取組  
幕末から明治期の日本の歴史との関連で、伊藤博文を題材に歴史新聞を作成する。

## ★ 阿武町探求～郷土の偉人を探ろう～

教材：岡 十郎

ねらい：郷土の偉人「近代捕鯨の祖」岡十郎の生い立ちや立志について学び、その生き方にふれることにより、たくましく夢を切りひらくきっかけにする。また、ふるさとを愛する心を育む。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

### 教材について

岡十郎は明治3年、阿武町奈古の酒造家に生まれる。慶應義塾に学んだ際、福沢諭吉より「韓海（朝鮮半島近海）の水産振興が緊要であり有意義である」と示唆を受け、捕鯨を志す。幾多の困難を乗り越えて近代捕鯨会社を設立し、後に東洋一に発展させ、「近代捕鯨の祖」と呼ばれた。

本教材では、岡十郎の挑戦する心や困難に立ち向かう意志の強さなどにふれることができ、たくましく夢を切りひらく生徒を育てることが期待できる。また、偉人を輩出したふるさとに誇りをもつことができる。



### 展開例

#### 学習の流れ

- ① 岡十郎の人生の概要を知り、知りたいことや調べたいことなどを挙げ、追究する課題を決定する。
- ② 岡十郎や捕鯨について詳しい方や郷土の歴史に詳しい方から話を聞く。また、本やインターネットなどで調べ、課題を追究する。
- ③ 調べた内容を整理し、岡十郎の生き方の中で、印象に残った出来事や行動などを挙げ、なぜ偉業を成し遂げることができたのかを分析する。
- ④ プレゼン用ソフト等を用い、わかりやすくまとめて発表する。

#### 授業づくりのポイント

- ① 課題設定  
◇ 具体的な調べ学習が進められるように、課題を設定する上で、効果的な助言を行う。
- ② 情報収集  
◇ 郷土にゆかりのある人物のため、家族や地域の方々への「聞き取り調査」も有効な手段の一つであることを助言する。
- ③ 整理・分析  
◇ 岡十郎の業績を顕彰するために、人生の転機を中心に紹介したい内容を絞る。
- ④ まとめ・表現  
◇ プレゼン用ソフトと発表原稿、人物年表などを分担して作成し、協力して発表させる。

### 教材研究

○ 山田桃作（1857年～1915年）

大津郡三隅村（現在の長門市三隅）出身。長州捕鯨の将来を危ぶみ、近代化が急務であると考え、岡十郎の計画に共感して共に日本遠洋漁業を設立。社長に就任。鯨肉とその加工品などを販売する伊佐奈商会を設立。県議会議員、衆議院議員としても活躍。日本製氷を設立。近代捕鯨のもう一人の先覚者である。

○ 「夢チャレンジ きらり山口人物伝Vol. 7」（公財）山口県ひとづくり財団

### 他の取組例

- 岡十郎の生涯を、道徳の教材として学習
- 社会科の歴史の学習の発展

★ 和船競漕を通じて地域を見つめ直し、伝統を継承しよう

教材：和船競漕に向けた取組全般

ねらい：和船の歴史や操船練習、大会を通じて郷土への関心や指導者の優れた技能、地域の産業である水産業への関心を高める。また、練習や大会当日の交流を通じて指導者や生徒同士の強い絆、豊かな人間関係を育む。

〈学習指導要領：各学校の定めた目標による〉

教材について

和船競漕の由来は、よい漁場を確保する方法として萩市各漁村対抗で競漕し、また、それぞれの漁村の地域娯楽の一つでもあったようである。漁業で栄えた越ヶ浜地区では、和船競漕とは言わず「おしあい」、「おしあいこう」と呼んで親しまれていた。和船競漕大会としては昭和34年に水協法施行10周年記念行事として県主催で北浦各漁協が参加し、萩湾を会場に行われたのが最初だった。その後、地元青年の漁業に対する理解を深めるための行事として行われてきたが、人集めが難しくなり、徐々に行われなくなった。しかし、越ヶ浜中学校への和船の寄贈にともない、昭和46年から中学校育友会に引き継がれ、小・中学校児童・生徒による行事となった。

毎年、十数名の和船指導者からの操船指導が中心となっており、小学校第6学年から中学校までの4年間を見通して、学年に適した学習を設定している。操船技術の継承も大切であるが、地域の伝統文化である和船を通じて、地域の人的・物的な良さを見つめ直すことが大切である。

また、練習や大会を通じて、命や仲間とのきずなの大切さを体験的に学ぶことで、達成感や集団所属意識を高めるとともに自己有用感や人権尊重の意識を育てることができる。

展開例

学習の流れ

○小学校での和船教室…第6学年

- ・和船についての基本的な事項や技能の学習
- ・和船指導者との交流



- ・操船練習…第6学年



授業づくりのポイント

○小学校での学習内容

- ・和船に乗る上での心得、船の各部位やロープの結び方等を学ぶ。
- ・和船指導者との初めての交流でもあり、児童からの質問や指導者からのメッセージなどコミュニケーションの時間を十分確保する。
- ・和船操船練習では指導員が必ず2名以上乗船し、救命胴衣を着用させるなどの児童の安全管理に努める。
- ・和船競漕大会には、全校児童が参加する。そのため、第6学年以外の児童は応援の練習に取り組み、当日の大会を支えるとともに、次代の伝統継承に向けた意識を高める。
- ・児童数の減少に伴い、5・6学年合同での和船競漕となる場合もあり、身体の高さや運動能力の違いにも十分に配慮し、組分けや指導者の操船支援を必要とする。



